

地域イベントが中山間地域に与える影響

～梶原グルメ祭りを例にして～

1190458 北野 有子佳

高知工科大学 経済・マネジメント学群

1. 概要

本研究では、高知県梶原町で行われている「梶原グルメ祭り」に関して梶原町役場の産業振興課、梶原町商工会会長にヒアリング調査を行い、事業内容や梶原町に与える影響また、イベントの継続性について明らかにする。

2. 背景

近年日本の中山間地域において、地域人口の維持、若者の減少が問題視されている。大都市における労働からの学習効果の影響が大きく、地方では経験できないような価値のある経験を大都市で積めることやあらゆる職、企業があり自分自身の視野を広げることができるために大都市に出ていく若者が多くみられる。その結果中山間地域では人口減少がより深刻化してきており、地域コミュニティの維持困難や税収の減少による地方自治の行き詰まりなど大きな社会問題となっており、早急な対策が必要となってきた。対策の一つとして地域活性化イベントがある。そのなかで「食」を使ったグルメイベントに注目した。食は人間の三大欲求に関わるものであり、そこでの印象は、再度人をその地に入れる魅力がある。

高知県内の様々な地域でグルメイベントは実施されているが、特に梶原町は地域活性化イベントに積極的に取り組んでいる。梶原グルメ祭りは平成26年より継続して県内外の観光客の集客に成功している。このイベントの成功要因を調査することは、高知県において県内外の観光客を長期にわたり集客するプロセスを明らかにすることであり、またそれが梶原町にどのような影響を与えているかを考える。

3. 目的

本研究の目的は、高知県・梶原町を対象とし、地域活性化

イベントをすることで梶原町にどのような影響があるか、またイベントの継続性について梶原町役場産業振興課、梶原町商工会会長へのヒアリング調査により明らかにする。

4. 研究方法

本研究は以下の手順で行う。

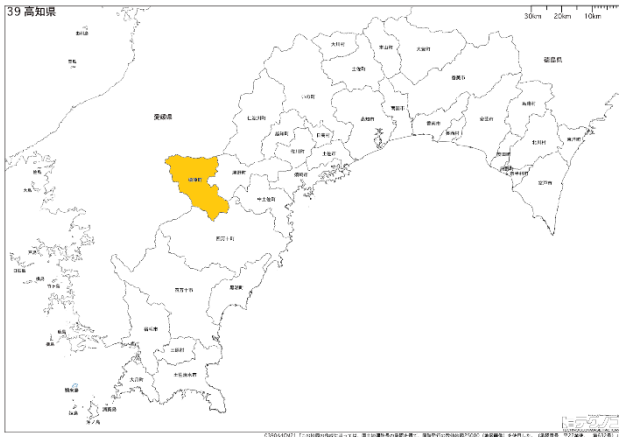
- ① 高知県・梶原町をフィールドとし、「梶原グルメ祭り」に関する資料（企画書、集計結果、売上等）を入手し、イベントの目的、内容、結果等の情報を把握し整理する
- ② イベントが地域に対しどのような影響があるのかを探るため、事業に関わっている梶原町役場の産業振興課、梶原町商工会会長へヒアリング調査を実施する
- ③ ヒアリング結果をもとに梶原グルメ祭りのステークホルダーのマップ化を行う
- ④ 梶原町に与える影響や継続的にイベントが実施できている成功要因をまとめる

5. 梶原町の地域活性化政策

5-1 梶原町の概要

梶原町は、高知県高岡郡に属し、町面積の91%を森林が占め、日本三大カルストである「四国カルスト」に抱かれた自然豊かな山間の町である。四国カルスト高原は、全国的にも珍しい高位高原カルスト地形になっており、至る所に手付かずの自然が残り、晴れた日などには太平洋から瀬戸内海まで一望できる。

石灰岩特有の白い岩が目立つ夏の高原では、里から登ってきた牛たちが放牧され、のどかに草を食んでいる。冬場は一面雪に覆われるが、その景色さえ自然の醸し出す幻想的な美しさがあり、多くの人々を魅了している。



(図1 梶原町の位置)



(図2 梶原町6区の地図・位置関係)

5-2 梶原町での取り組み

梶原町では、体験、モデルコース、食べる、観光、祭り・イベントなど様々な分野で地域の魅力を伝えている。一年を通して、たくさんのイベントが行われている。春のイベントとして、松原区セラピーロードでは新緑祭がある。また、夏のイベントとして、虫送り、ふれあい夜市、高原祭り、二十日念仏がある。秋のイベントとして、研究のテーマである梶原グルメ祭りををはじめ、龍馬脱藩マラソン、津野山神楽、越知面区神祭、西区神祭、大鳴海祭、紅葉祭などがあり、秋にはたくさんのイベントが開催されている。

6. 梶原グルメ祭りについて

6-1 梶原グルメ祭りの概要

まず、梶原グルメ祭りの目的として、梶原は高知、愛媛から1時間半で来られる距離にある。このことを梶原の地の利の良さや、町の良さを知ってもらう機会としてとらえ、梶原の「食」文化を高め、多くの方々に梶原を訪れてもらい、今後の交流人口の拡大、経済波及効果につなげることが狙いである。開催初年度の平成26から27、28年度は、高知と愛媛のグルメを中心に販売するとともに、土佐牛まるかじり大会も同時開催していた。しかし29、30年度からは、薩長土肥と呼ばれた、現在の鹿児島県・山口県・高知県・佐賀県が共同して取り組んでいる幕末維新博をテーマとした広域観光プロジェクトの影響で、5県のグルメを取り入れた。30年度は土佐牛まるかじり大会の同時開催はしていない。薩長土肥とは、江戸時代末期(幕末)に雄藩と呼ばれ、明治維新を推進して明治政府の主要官職に人材を供給した薩摩藩(鹿児島県)、長州藩(山口県)、土佐藩(高知県)、肥前藩(佐賀県)4藩の総称である。その主要人物たちは「維新の元勳」と呼ばれた。そして29年度からは「西四国のへそ」高知県梶原の地に薩長土肥が集結し、例年同様高知と愛媛のグルメに加え薩・長・肥も出店している。

6-2 梶原グルメ祭りの過程

前年度の前算案などを見て実施の有無を決める。町からは補助金がおおりる。

◎収入の部

(単位：円)

項目	精算額
町補助金	9,000,000
繰越額	413
まるかじり売上	5,398,972
あめご売上	95,300
寄付金	40,000
電気代等負担金	380,000
計	14,914,685

◎支出の部

(単位：円)

項 目		精 算 額
グ ル メ 祭 り 部 分	テント関係	2,881,402
	看板・サイン関係	335,922
	警備・司会・音響	1,503,897
	印刷製本	588,122
	薩長土肥関係	457,319
	薩長肥旅費	369,862
	シャトルバス	1,036,396
	その他	1,108,012
丸 か じ り	テント関係	1,196,451
	広告関係	111,319
	肉代金	3,153,075
	その他	2,172,773
計		14,914,550

◎項目詳細

グルメ祭り部分

- ① テント関係…テント、イス、テーブル、冷蔵庫、流し台等
- ② 看板・サイン関係…テントパラペット各種看板、サイン類
- ③ 警備・司会・音響…警備員両日26名ずつ、司会・音響2日
- ④ 印刷製本…チラシ20,000枚、ポスター300枚 他
- ⑤ 薩長土肥関係…テント、テーブルコンロ 他
- ⑥ 薩長肥旅費…鹿児島、佐賀、山口
- ⑦ シャトルバス…高陵中型6台、四万交1台、来米3台×2日
- ⑧ その他…電気工事、水道工事、スタッフポロシャツ 他

まるかじり部分

- ① テント関係…テント、イス、テーブル、仮設トイレ 他
- ② 広告関係…駐車許可証、チケット、ポスター
- ③ 肉代金…肉472.3kg
- ④ その他…野菜、おにぎり、たれ、炭、箸、皿

(収入額)14,914,685 - (支出額)14,914,550

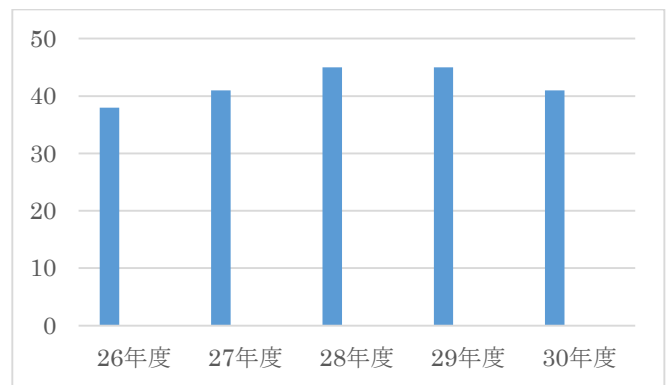
= (次年度繰越金)135円

6-3 来場者数等

ヒアリング調査の結果、26年度で出店者数は38店舗、27年度は41店舗、28年度は45店舗、29年度は45店舗で、30年度は41店舗となった。(図3)

運営の規模により身の丈経営をしており、出店者数を制限している。

(店舗)

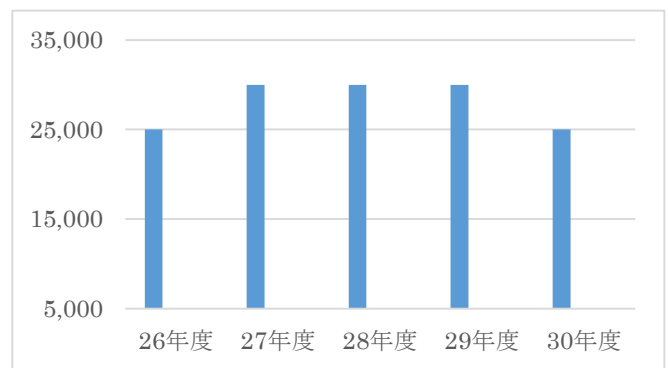


(図3 グルメ祭りの出店者数)

また来場者数は、26年度は25,000人、27年度は30,000人、28年度は30,000人、29年度は30,000人、30年度は25,000人となった。(図4)

横ばいになっており、高知県民だけではなく愛媛県民が7割訪れる。県外からの観光客も集客できている。

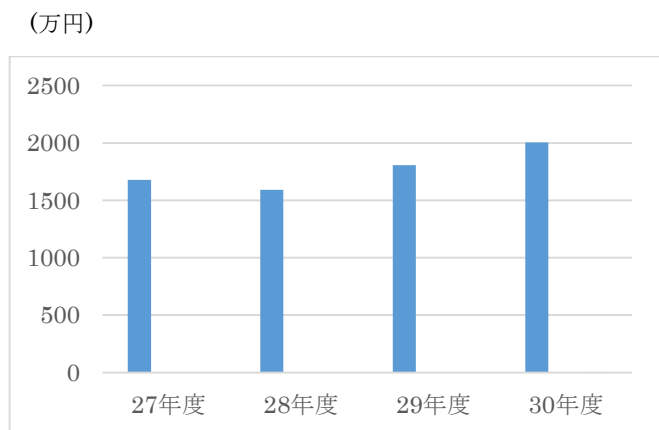
(人)



(図4 グルメ祭りの来場者数推移)

6-4 売上

26年度は数字での売上が出せていなく、23,772食という結果になった。次年度以降の27年度は16,774,191円、28年度は15,915,462円、29年度は18,071,275円、30年度は20,067,472円となった。(図5)



(図5 グルメ祭りの売上推移)

7. 梶原町の各施設について

グルメ祭りだけではなく、グルメ祭り開催前と後でどのような変化があるのか、梶原町の各施設(雲の上のホテル・レストラン、雲の上の市場、雲の上の温泉、マルシェユスハラ、まちの駅市場)の売上にも注目した。

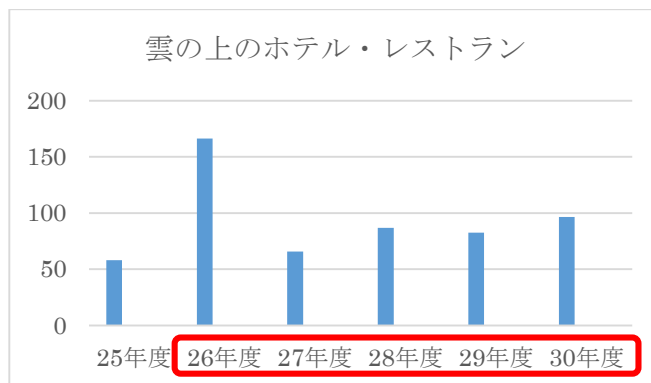
◎雲の上のホテル・レストラン

グルメ祭り開催前の25年度は579,591円、26年度は1,662,661円、27年度は656,770円、28年度は869,436円、29年度は825,328円、30年度は965,450円となった。

26年度の売上が飛び抜けて高い理由は、グルメ祭り開催の初年度ということもあり来場者数の予測がつかず、出店者数も少なく、売切れ多発だったためにレストランを利用するしかなかった。

しかしグルメ祭り開催前の25年度と開催後を比較してみると売上は右肩上がりであり安定している。(図6)

(万円)

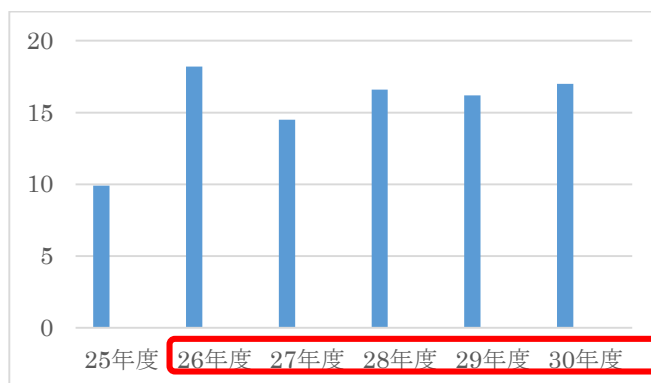


(図6 売上推移)

◎雲の上市場

25年度は99,255円、26年度は182,315円、27年度は145,355円、28年度は166,744円、29年度は162,187円、30年度は170,835円となった。(図7)

(万円)



(図7)

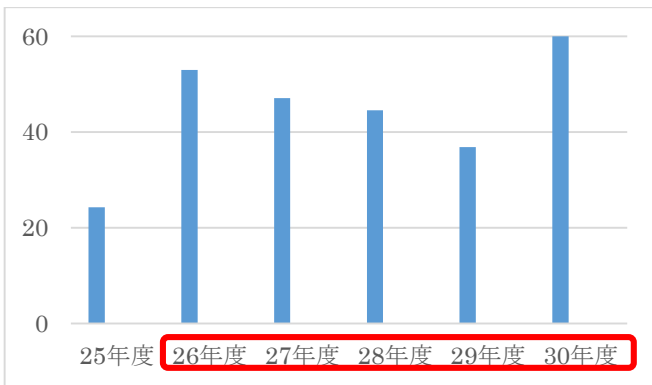
◎雲の上温泉

25年度は243,885円、26年度は530,623円、27年度は471,425円、28年度は446,594円、29年度は360,737円、30年度は610,885円となった。(図8)

◎マルシェユスハラ

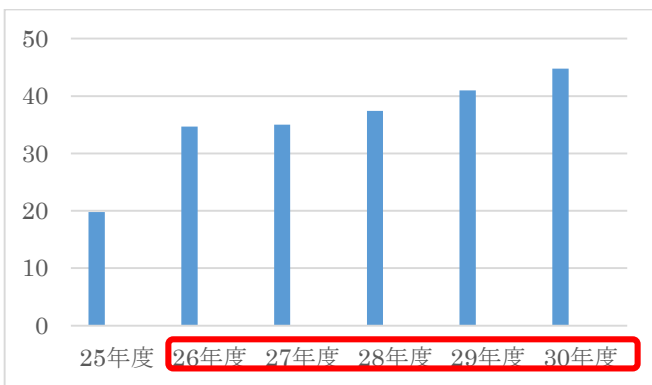
25年度は198,030円、26年度は347,208円、27年度は350,320円、28年度は374,149円、29年度は410,270円、30年度は448,070円となった。(図9)

(万円)



(図 8)

(万円)

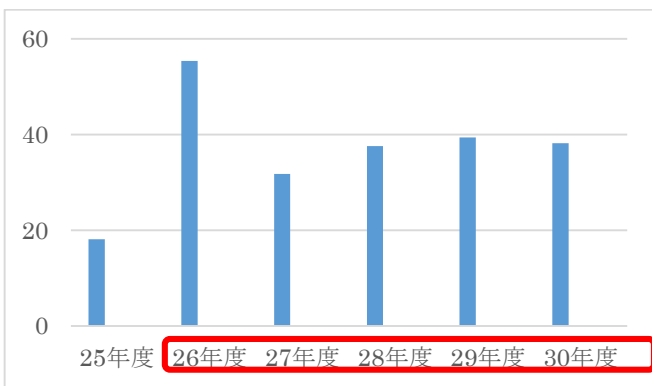


(図 9)

◎まちの駅市場

25年度 181,375 円、26年度は 554,020 円、27年度は 318,772 円、28年度は 376,352 円、29年度 394,484 円、30年度は 382,974 円となった。(図 10)

(万円)



(図 10)

8. 梶原グルメ祭りのステークホルダーのマップ

関わっている組織、人についてのヒアリング調査により、ステークホルダーマップを作成(図 11)

実行委員会は意思決定する。

梶原町役場の産業振興課は当日の運営、会計、資料・チラシ作りをする。全ての業務をほぼ運営、担当をする。

商工会は出店者に募集を呼びかけ、取りまとめ産業振興課に回す。また当日の段取りやルールを出店者、アルバイト、イベント業者等に説明する。

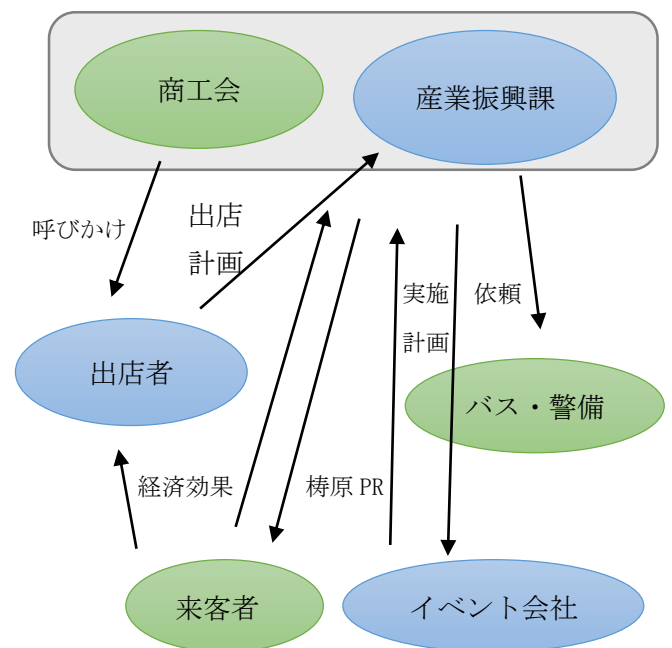
バス会社は駐車場～会場間のシャトルバスを運行する。

警備員は駐車場等の警備を担当する。

イベント業者である USK は当日のイス・テーブル・テントなどの用意、設置をする。

出店者は準備、販売、片付けをする。

またマップにはないが、高校生を含むアルバイトは当日のゴミ回収や見回りをする。



(図 11)

9. 梶原グルメ祭りについて

9-1 問題点・解決策

イベントを開催するうえで様々な問題点がたくさんある。駐車場付近の混雑を解消するために消防団に協力を依頼し、駐車場警備の人員を増やし対応した。

またシャトルバス乗り場と降り場を別々にすることで、待合の混雑は概ね解消できた。また本部との連絡には無線機を使用した。

また 28 年度から課題であったペット同伴についてもペット可の飲食スペースを設け、対応した。

また来場者数は例年同様、2 日目が多く、昼過ぎから完売の店舗が出始めたが、販売食数も以前より多く概ね好評であった。来場数増加のため、ゆすはら座や未来館も利用し、飲食スペースを確保した。

グルメ会場では、可燃、ビン・カン、汁物のほかに串専用のバケツを設置した。各種案内表示（文言、サイズ、掲示場所）を見直した

9-2 デメリット

まず 1 つ目は、8 の項目で述べた通り梶原町役場の振興課は当日の運営、会計、資料・チラシ作り(図 12、図 13、図 14)をし、全ての業務をほぼ運営、担当するのでイベント業務が仕事になりがちになっている。元々の産業振興課の業務とは異なり、仕事に集中できていないことがあげられる。

2 つ目は、イベントは天候・気温の変化で売れるものが左右されるということ。グルメ祭りは毎年 9 月に開催されているが天候・気温が毎年同じではない。もちろん気温が暖かいときにはラーメンやカレーパンなどのホット商品は売れにくく、コールドドリンクやスイーツがよく売れる。逆も同じで肌寒い気温には、ホットな商品が売れる。また天候に関しては台風・豪雨のときは中止にしなければならないし、小雨時は晴れの日に比べ来場者数はもちろん少なくなる。天候・気温によってイベントが失敗に傾く恐れもある。

3 つ目は、初期負担額が 1 千 500 万円いるということ。次年度に向け、利益を出すには今までの傾向をみて、商工会は出店者に何個以上準備してもらうのか、当日までの段取り、準備を明確に伝える必要がある。

表紙のデザインは毎年違い、裏表紙には梶原町、グルメ祭り、駐車場のアクセスマップを詳しく記載している。また梶原自慢のキジ肉を使ったメニューを提供している店舗名・住所・電話番号も記載している。



(図 12 26 年度のパフレット)



(図 13 27 年度)



(図 14 30 年度 薩長土肥も紹介)

9-3 メリット(影響)

まず、第一に食文化の魅力があるということがあげられる。また他のグルメイベントは肉だけ、ラーメンだけなど1、2種類だけの集まりでつまらないかもしれないが、梶原グルメ祭りは多種多様で飽きさせないイベントになっている。

また高知県から愛媛県への地の利の良さ、愛媛県でのCMにより県内外の観光客の集客に成功している。グルメ祭り＝梶原町のイメージが付き、梶原の町、業者を知ってもらうことができる。その結果、外部との関わりが増え、業者の育成にもつながっている。自然と地域経済のUPにもつながっている。ただ単に若者が欲しい、売上(数字が結果になりがち)といった目的の地域に発展はない。目的をどんなものにするのかを明らかにしていないと、地域発展はしない。

どれだけ売上があったとしても、県外の業者、ものを使うと県外にお金が回るので、なるべく地元のものを使い、梶原町内・高知県内でお金を回すことで、町民・県民の幸せにつながる。

9-4 中山間地域における食のイベントの有効性

継続的に開催できるのは、予算があるのはもちろんだが、1年目では目的・効果が分からない。3年くらいして本当にどうなのかを確かめる必要がある。梶原グルメ祭りが長続きする秘訣として、次の要因がある。

- ・適正な規模で身の丈経営である
- ・多種多様で飽きさせないイベントになっており、新たな取り組みと対応性がある
- ・トイレやテーブル、ゴミ処理などキレイを保っている
- ・トイレや飲食スペースの確保が十分に取れている
- ・予算がしっかり取れている
- ・スタッフの確保ができています
- ・行政支援がおいついている

また女性が多く訪れるイベントは、大人数で来ることやイベントに興味あることから比較的継続できている傾向にある。

また産業振興課、商工会、地域住民など梶原町全体で実行力があるのも成功のカギとなっている。

梶原グルメ祭りはイベントを通して、梶原への距離感や雰囲気を知ってもらい、次につなげていき、その地域に一度訪れ

てもらうことがとても大切である。若者や人口増加うんぬんではなく梶原自体のブランド力を高めていくことに力を入れている。また様々な対策やアイデアにより継続的にイベントを行えている。

実際梶原グルメ祭りに行った際、普段は食べられないグルメを堪能できたことや梶原という町を知ることができた。梶原町というブランドを広めることに成功している。梶原町だけでなく高知県全体でも誇れる自慢のグルメイベントになっていることが分かった。今後もこの梶原グルメ祭りを継続していくべきだと思った。

10. まとめ

10-1 結論

本研究では、グルメ祭りの資料(企画書、集計結果、売上等)を入手し、イベントの目的、内容、結果等の情報を把握し整理、梶原町役場の産業振興課、梶原町商工会会長へのヒアリングの結果、これらの事項が明らかとなった。

- ・運営にあたり出店者数を制限するなど運営の規模を把握しており、身の丈経営に結びついている
 - ・固定的なもの(梶原のもの)と可変的なもの(流行に乗ったもの、B級グルメ)を上手く合わせている
 - ・顧客に飽きさせない工夫をしている
 - ・ステーキホルダーを見たときに、梶原町役場の産業振興課と梶原町商工会がタイアップして地域全体で実施している
 - ・集客数も横ばいになっており毎年安定した集客数がとれている
 - ・梶原町＝グルメ祭りという印象がついてきたことにより梶原町に対して誇れるイベントになっている
 - ・実行委員会等の意思決定がシンプルである
- 他の地域活性化イベントと比べ、以上の点から梶原グルメ祭りは成功していると考えられる。

10-2 今後の方向性

地域への影響や集客成功の要因についてヒアリング調査の結果から今後の方向性についても考える。

概要で述べたように26年度～28年度は高知・愛媛のグルメを中心に提供し、29、30年度は志国幕末維新博の影響で薩長

土肥を含めた5県の都市のグルメを提供してきた。しかし毎年同じことをしても意味がない。またこれ以上来場者数が増えすぎてもキャパオーバーになり、トイレ、飲食スペースの確保が十分にできなくなるために1人ひとりの満足度が減るかもしれない。環境、設備、商品自体で満足度をあげなければならぬ。

また今後の方向性として、中四国の規模にしてみることや地域性を活かすか、それとも有名どころのヒト・モノを使い注目度を高めるのか、食だけではなく、ショッピングも視野に入れ食と絡めた違うものを置いてみる等があげられる。

また31年度へ向けた対応として効果額や費用額も参考にし、実行委員をはじめ、産業振興課、商工会、イベント会社等と話し合い、考える予定となっている。(図15)

◎効果額

(単位：円)

直接効果 (イベントのために町内へ支出した額)	7,500,000
間接売上効果 (イベントを実施したことでの周辺商業の売上増加額)	3,000,000
売上効果 (イベントでの売上)	4,435,000
波状効果 (イベントを実施することでの知名度UP等によるリピーター等の効果)	3,000,000
総効果額	17,935,000

◎費用額

(単位：円)

費用(実行委員会への補助金)	14,914,000	
テレビCM他	4,212,000	
職員の事務的経費	30日×4人= 120人×20,000円/人	2,400,000
JA森林組合職員	4日×20人= 80人×20,000円/人	1,600,000
総費用額	23,126,000	

イベント損失額	-5,191,000
---------	------------

(図15)

11. 謝辞

この研究を卒業論文として形にすることが出来たのは、梶原町役場の産業振興課、梶原町商工会会長である長山和幸会長、住民の方々が貴重な時間を割いてヒアリング調査に協力していただいたおかげです。協力していただいた皆様へ心から感謝の気持ちと御礼を申し上げたく、謝辞にかえさせていただきます。そして、本研究を進めるにあたり、ご指導を頂いた卒業論文指導教員の馬淵泰先生に感謝致します。また、日常の議論を通じて多くの知識や示唆を頂いた馬淵研究室の皆様へ感謝致します。

12. 引用・参考文献

1 雲の上の町ゆすはら—高知県梶原町—(最終閲覧日:2018年12月20日)

<http://www.town.yusuhara.kochi.jp/town/>

- 2 グルメ祭りについての概要、目的の資料(産業振興課 作)
- 3 グルメ祭り、各施設の売上高の資料 (梶原町商工会会長 作)

